

事業名		代表者所属	岡山大学環境生命科学研究科(農学部)
12KJ-002		代表者	センター長・教授 齊藤 邦行
岡山大学農学部ジュニア公開講座「これでみんなも岡大ライス博士」		開催地	岡山市
		助成金額	10万円
活動概要	<p>日時：2012年6月16日(土), 8月4日(土), 10月13日(土), 12月8日(土), 計4日</p> <p>場所：岡山大学農学部山陽圏フィールド科学センター</p> <p>対象：小学生(4年生以上)とその保護(引率)者</p> <p>参加者(人)：小学生12名と保護者8名 内訳(小中高の先生;0人)(生徒;12人)</p> <p>内容：小学生高学年を対象とし、田植えから除草、収穫、そして餅つきまで、本物の田んぼで本物の稲(岡大ライス)を栽培し、稲作に関する基礎と最近の生産技術について体験した。実験を通じてイネの植物としての特性や「田んぼ」の生態系の成り立ちを理解させた</p>		



田植え実習(6月16日)



バケツ稲田植え(6月16日)



水田の虫取り調査(8月4日)



みんなで稲刈り(10月13日)



みんなで餅つき(12月8日)



「岡大ライス博士号」授与(12月8日)

事業の目的・ねらい

岡山大学農学部附属山陽圏フィールド科学センターでは、約 10 ヘクタールの水田で水稻の栽培を行い、収穫されたコメは大学生協の食堂で「岡大ライス」として提供され、また販売所を通じて地域住民の皆さんに親しまれている。「田んぼ」はヒト(こころ一体)と自然をつなぐヒトが創った生態系であり、田んぼの生態系を維持するためには多くの働きかけ(管理作業)が不可欠となる。ヒトと自然とのつながりを「田んぼ」の生態系を管理(実習)することを通じて実感するとともに、実験を通じて「田んぼ」の生態系の成り立ちを理解するように促す。

事業の概要

水稻栽培に関する基礎および最近の生産技術について体験してもらった。「なぜ田植えをするの？」に答えるため、稲作の歴史や栽培様式の地域性について解説した。水田の耕起－代掻き－施肥、各作業の意味を説明し、田植え実習を行った(無農薬栽培)。また、自宅でペットボトルイネの観察日記を作成してもらった。「雑草と害虫とは？」という疑問に答えるため、イネを栽培すると雑草や害虫が発生する理由や種類と特徴について解説した。水田の除草実習を行い、無農薬栽培のコストが大きいことを実感してもらった。「稲刈りってどうやるの？」という疑問に答えるため、稲刈りと乾燥方式の歴史的変遷と地域性について解説するとともに、実際に稲刈り実習を行い、秋の収穫を体験してもらった。「お餅とお米？」お餅とお米の関係を化学的成分と粘りとの関係から解説し、実際に作ったもち米を使って、餅つきを行い、稲作に関連した文化や風習について理解してもらうとともに、収穫に感謝するところを育むよう努めた。最後に、感想についての発表会を行い、「岡大ライス博士号」を各受講者に授与して本講座をまとめた。

結果及び効果

講座の実施によって、主食である米に対する市民の理解が深まり、食料問題における自然環境－田んぼ－食－ヒトとの繋がりに関する理解を深めることができた。食文化における米の位置づけ、また水田を基礎とした水稻生産の意義について理解が深まるとともに、米の流通にみられるさまざまな問題に感わされること無く消費行動ができる賢い消費者の育成につながったと考えられる。